

# 学校現場から悲鳴が聞こえる

## 第17回「中学校の進路指導～やるべきこととやらなくてもいいこと」

1978年の共通一次試験導入にともないいわゆる「受験戦争」に拍車がかかったとされます。そしていまは「お受験」という言葉に示されるように、幼児から高校まで受験競争は過熱しています。子どもたちも勉強に追われていますが、先生たちも学校間の競争に翻弄されています。

今回は、中学校の進路指導をめぐる問題を中学校の先生に語っていただきました。

### どこまでやるか？進路指導！

**記者** 中学校の進路指導がどのように行われているのか、学校によって多少の違いもあるかと思いますが、先生の学校ではどのようになっていますか。

**Uさん** 中学3年の11月の三者面談で受験校を決めるのが大筋の流れです。学校によっては夏休み中にも三者面談や補習を行っています。進路指導担当教員がきめ細かな通信を発行し、保護者に情報提供を行う学校もあります。生徒に対しては、総合の時間や学活の時間をつかって、願書を書く練習や面接の練習など、繰り返し指導している学校もあります。

**記者** 高校の教員をしていた時ですが、面接では質問に対してどの受験生もほとんど同じ答が返ってくる事が多く、指導が行き過ぎているというか、没個性を感じる事が多々ありました。

**Uさん** そういうこともあるかと思いますが、さきほど「学校によっては」と言いましたがここがポイントです。夏休み中に三者面談や補習を行わない学校もあるし、進路通信を出さない学校、総合の時間を進学指導に充てない学校もあります。私がかつて勤務した学校ではこうしたことを行ってきませんでした。何かトラブルが発生したかといえは全くなく、滞りなく入試は終わり、

生徒たちは無事卒業していきました。

何が言いたいかというと、多くの学校で膨大な進路事務に追われる先生たちの仕事は、実は大部分が省略できる事務であるということです。もちろん特別な支援が必要な生徒や保護者はいますが、多くの生徒の場合は必要最低限の情報だけ提供すれば十分です。欧米のように、「進路について先生は関わらない」というのは日本の文化には馴染まないのかもしれませんが。

過干渉であることが仕事熱心と捉えられがちな学校現場の空気は変えるべきです。仕事自体が嫌な訳ではありませんが、「これって必要ないんじゃないかな？」と思いながらやる仕事はとてもストレスがたまります。

**記者** 同感ですね。私も経験があります。朝のSHRで生徒から前日の学習時間調査のプリントを回収し、個人別にパソコンに入力します。英語が10分、数学が15分、国語が15分というように毎日入力し、月末にクラス別の学習時間がグラフになって示されます。面倒と思っている生徒は適当に数字を入れてきます。当然です。こんなことで学力が上がるわけがありません。学年会議で止めるべきと言っても前任校で実施していたというので学年主任は聞く耳を持ちませんでした。ストレスのたまる仕事でした。それからセンター

試験の当日ですが、3年担任は朝の6時には試験会場の門前で受験生を激励します。予備校が早くからやっていますが、今は公立高校の先生も同じように門前に立ち、商業ペースに合わせてるようにキットカットなどを配って激励します。共通一次試験の頃にはなかった光景ですが、どこかの学校がやり始めると『我が校でも』ということになりますね。

## 生徒のためにやるべきことをやる

**Uさん** 問題はそこですね。「あれもこれもやるのがいいこと」という職場の雰囲気です。「あれもやりましょう」「これもやりましょう」と言われると、「そんなことは止めましょう」とはなかなか言えません。さらに「自分の時間を犠牲にして、たくさん仕事をしている人」が情熱ある先生で、仕事ができる先生と思われがちな学校文化があります。「生徒のためにやるべきことをやる」「生徒のためにならない、無駄な仕事はやらない」「教師自身が自分の時間を大切にする」、そういう学校文化をつくることができれば、生徒と接する時間的、精神的ゆとりも生まれ、結果的により良い教育が出来るのではないかと思います。

**記者** 職員会議が校長の伝達機関になっていたり、学年会議も学年主任の意向が強く反映され、ほとんど発言もなく会議が終了するということがあります。私は、校長であってもしわゆる平の教員であっても、教育に関しては対等平等という姿勢を貫いてきましたが、なかなか道理が通らないということがありました。先生の思いは痛いほどわかります。

先ほど夏休み中の進路指導のことが出ましたが、部活指導もあり、勤務実態は相当厳しいものになっているよう

に思いますがどうですか。

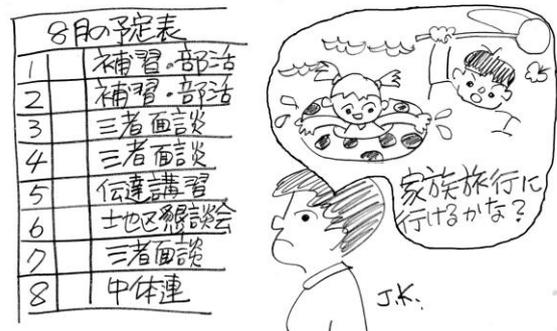
## 憲法 13 条

### 『すべて国民は

### 個人として尊重される』

**Uさん** まとめて年休（有給休暇）がとれる唯一の期間である夏休みに、三者面談、補習、出張、部活、奉仕作業などが入っているので、事実上年休が消化できない問題があります。「先生なんだから仕方ない」の一言で片付けられてしまうと、憲法 13 条『すべて国民は個人として尊重される』に違反しているのではないかと考えてしまうのは私だけでしょうか。それとも先生という職業は『個人』であってはいけないのでしょうか。

**記者** 憲法条文に踏み込んだ意見が出て驚



きましたが、教職員も一人の労働者であり、個人として尊重されるのは当然だと思います。子育ても親に心の余裕がなければなかなかうまくいかないのと同じように、教職員も心のゆとりがなければいい教育はできないと思います。そのゆとりを奪っているのが先生が言われる「あれもこれも」という強迫観念のようなものが蔓延しているのかも知れません。

さて、次号では進路指導を通して中学校の立場から見えてくる高校の問題点や多様化する学科などについてふれたいと思います。